

第3回 山形県・山形市新スポーツ施設整備検討会議の概要

1 日 時 令和8年2月17日（火）午前10時30分から午前11時55分まで

2 場 所 山形県建設会館 1階 大会議室

3 出席者 出席者名簿のとおり

4 議事概要

(1) 県及び山形市事務局説明

- ・ 新スポーツ施設の建設候補地を、山形市桜町地内の「県民ふれあい広場（旧県立中央病院跡地）」を含むエリアと選定したことを説明（同一敷地内に新博物館も整備）（資料1）。
- ・ 令和8年度については、新スポーツ施設整備に向けた規模、機能、事業手法等に関する技術的検討を実施しながら基本計画策定に取り組むほか、建設候補地に係る調査として、敷地測量、土壌汚染状況調査の計画策定及び新博物館と新スポーツ施設の配置環境基本計画策定等に取り組むことを説明（資料1、2）。
- ・ 現時点で想定する屋内スケート施設の供用開始までのロードマップを示し、最短で令和13（2031）年度下期の供用開始を目指すことを説明（PFI手法を導入する場合は、供用開始が1年半から2年程度遅れる見込み）（資料2）。
- ・ 令和6年度の県体育館の利用状況調査を踏まえ、地域住民のためのスポーツ施設及び山形市内の既存体育施設での利用者の受入れについて試算した結果、これらの施設において、県体育館の主競技場及び小競技場における練習等での日常利用や催し物、小競技場単独で開催される大会の受入れが可能であると考えられることを説明。また、これを踏まえ、現在山形市が地域住民のためのスポーツ施設として想定している体育館機能のイメージ（バレーボールコート2面分の広さ）及び武道館機能のイメージ（柔道場2面分及び剣道場2面分の広さ）が、妥当であると考えられることを説明（資料3、4）。
- ・ 今後、技術的検討支援業務委託により専門事業者の支援を受け、屋内スケート施設の体育館利用の方向性（スケートリンクからの切替えの頻度、期間等）や、屋内スケート施設と地域住民のためのスポーツ施設との相乗効果等も含め、詳細に検討していくこと、また、公立学校体育館の更なる一般開放による受入れの可能性等についても調査していくことを説明（資料4）。

(2) 協議

事務局説明等を踏まえた委員の意見については、下記のとおり（発言順）

【井上 圭子 委員】

今回は、建設候補地が具体的に示され、スケジュールも明示していただきまして、実際にこれらの施設が整備されていくんだという安心感と同時に、供用開始まで最短でも5年もかかるのかという残念な気持ちもあります。また、山形市中心部を候補地としていただき、さらに博物館が一緒になって整備されるというお話を伺いまして、ワクワク感も出てまいりました。これまでの検討会議においても、県民、市民がワクワクできる施設にならなくてはいけないという意見がありましたけれども、そういったワクワク感が私の中にも出てきまして嬉しく思っているところです。

資料2には、利用者動線、新博物館やカフェなどの付帯機能も含めた施設配置などと説明されており、そういったところも検討いただいていると推察しておりますけれども、子どもから大人、高齢者、そして車いすなどを使っている障がい者の方など、皆様が利用しやすく、健康増進も図れるような施設となることを期待します。また、体育施設、屋内スケート場の利用者だけでなく、近隣の人たちが気軽に立ち寄って体を動かせる場所や、ちょっとした遊具を設けていただくなど、博物館、体育館・武道館、屋内スケート場が一体となって整備される場所を、全体的なビジョンとして検討し、みんなで健康増進、そして文化的な知見を広められる場所にしていただきたいと感じたところです。

山形市による地域住民のためのスポーツ施設に関しては、ビジョンがやや見えづらいところがあるかございます。前回の検討会議において、皆さんからやや規模が小さいのではないかという意見がありました。今回検討していただいた結果によると、規模については妥当と判断されたものと理解しておりますけれども、それに加え、休憩するスペースや、見学をする際のスペースなど、フリーなスペースについては検討していただいているのでしょうか。また、近年は猛暑の影響で、体育館を利用するところではない気候となっております。体育館について、エアコンなどの空調の設置はお考えいただいているのでしょうか。山形市による地域住民のためのスポーツ施設に関しては、そういった点も検討していただきたいと感じたところです。以上です。

(市事務局)

ただいま、市が担当する体育館について御意見をいただいたところですが、これまで御説明した内容につきましては、体育館のフロア部分についてお示したものです。井上委員から御指摘いただいた機能につきましては、今後、技術的検討支援

業務委託の中で、屋内スケート施設と共有する部分や、合理的な施設内容での配置パターンについて検討してまいりたいと考えております。

【山田 浩久 会長】

事務局としては、この調査・分析の結果、山形市の体育施設及び県の屋内スケート施設の規模は妥当だと判断したという理解でよろしいですか。

(市事務局)

はい。いわゆるフロアの面積や、その面積に基づく受入れの可能性等を含めて、これから基本計画に入っていく現段階でのスペースとしては妥当だと考えてございます。

【山田 浩久 会長】

ありがとうございます。先ほどの井上委員の意見は、その上で、主機能以外の副次的な機能についても充実させてほしいといった内容だったと思います。施設間の相乗効果などを考えると、主機能に加え、副次的な機能の充実が重要になってくると思いますので、非常に重要な御意見だったと思います。

【小原 爽子 委員】

小原でございます。スポーツ施設というのは、得てして本当に使う一部の人だけが利用してすぐ帰るといったものになりがちでございます。この度、博物館と隣接し、建設候補地も山形駅から10分ほどの文化施設もある素晴らしいゾーンですので、せっかくこういう良い場所に整備するのであれば、やはり様々な人々の交流拠点となる施設を目指すのがよいのではないかと考えております。スケートリンクと体育施設を利用するだけではなく、そこにいろんな方々が滞留でき、先ほど見学できるスペースというお話もありましたが、いろんな方々の居場所になる施設を目指してもよいのではないかと考えております。

私は、様々なスポーツ施設の整備に関わってきましたが、特に地方においては若者の居場所が少ないという御意見をよく耳にします。若い方々はお金がたくさんあるわけではありませぬので、無料でちょっと留まれるスペースや、何人かで居られるスペースがあるとよいのではないかと考えております。

そのために大事なものは、やはり運営です。運営をする中で、そういった方々がいつでも交流できるような工夫が必要になってくるかと思っております。運営する際にも、市民とともに作るような、意見をいつも伺えるような、あるいは市民が主体的に関わって居場所づくりができるような施設であればよいのではないかと考えております。以上でございます。

【加藤 文子 委員】

前回の検討会議において、山形県、山形市でこういったアクティビティの場が不足しているかについて、ニーズを把握されてもよいのではないかと発言をさせていただきました。今回、県体育館とその他の既存スポーツ施設の稼働状況に関する調査をしていただき、現状の把握と、新施設のキャパシティ等の検討に当たり、非常に参考になると感じております。

この資料から分かることは、県体育館がなくなっても、単純な合計利用回数で見れば、練習については市内の既存スポーツ施設で、他の大会に関しては県総合運動公園のアリーナで代替することができる、ということかと思えます。しかし、時間帯によっては、明らかに今の時点で足りない、あるいは足りなくなること、また、繁忙期の重なりがかなり発生することが考えられますので、その分を新施設でカバーしていくという、そういった大きな形が見える調査結果だと思えました。

資料4で、時間帯ごとの利用回数を丁寧にお調べくださっておりますが、特に夜間の利用率が高い点につきましては、社会人の方に関して仕事が終わった後のアクティビティの場が非常に不足しているという私の前々からの実感とも合っていると思えました。新施設をどのように整備するかはとても大事ですけれども、どのように運営していくかということも非常に重要だと思えますので、こうした調査結果を新施設の運営にも反映していただきたいと思えました。他の既存施設の運用の見直しなどにも活用いただければ、スポーツを通した県民のウェルビーイングの向上に大いに寄与するのではないかと感じております。

また、建設候補地については、公共交通機関で利用しやすい場所であり、駅前商店街や七日町商店街などへの回遊効果も見込めるような、当初からの方向性に沿った立地であると思っております。さらに、博物館とともに整備されることや、近くに美術館、歴史館などもあることから、文化とスポーツの垣根を超え、連携した幅広い催しなども可能になるのではないかと期待しているところです。以上です。

【栗田 和真 委員】

まず今回、利用者ニーズを細かく具体的に分析していただいたこと、それから建設候補地が具体的になったことは大きな進歩だと思っております。

その上で3点、御意見、御質問させていただきたいのですが、まず1点目、新博物館と新スポーツ施設の同一敷地内の整備ということでございますけれども、これまでの検討会議では、屋内スケート施設と体育館・武道館を同一敷地内で整備するというイメージでしたが、今回それに加えて、新博物館も同一敷地内に整備する方

向性が示されました。相乗効果という面では期待できるところがあるとは思いますが、この背景、経緯についてお聞かせいただければと思います。

(県事務局)

建設候補地につきましては、アクセス性や周辺環境、地域活力向上への寄与等を総合的に評価した結果、この土地が最も適していると判断したところです。

新博物館につきましては、昨年末に開催しました新博物館基本構想検討委員会において、新博物館の理念や機能の具体化に向けた立地条件をお示しました。その条件を5つ申し上げると、①国内外から訪れやすい交通利便性に優れた場所、②土砂災害などのリスクが小さい場所、③周辺の教育・文化施設や観光拠点と連携できる場所、④建設に必要な敷地を確保できる場所、⑤遊休公有地の活用など用地取得費の低減が期待できる場所、これら5つの条件をお示し、この条件に沿って適地の選定を進めてまいりました。そうしたところ、新スポーツ施設につきましても、やはり同じような方向性で検討してきたこともありましたので、新スポーツ施設及び新博物館の立地場所として、敷地の全体面積を確保できるという判断をし、同一敷地内で整備するという方向性になったところでございます。

【栗田 和真 委員】

ありがとうございます。今、御説明いただき、十分理解しました。ただ一つ、懸念されるのは、屋内スケート場の利用者、体育館・武道館の利用者、さらに加えて博物館の利用者が、例えば週休日や長期休暇中の家族連れなどが集中し、周辺道路の交通渋滞や、駐車場不足などが発生すると思われることです。そういった課題への対応も含めて検討していただきたいと思っています。

2点目になりますが、供用開始までのスケジュールについてでございます。資料2の説明の中に、最短で令和13年度(2031年度)、さらにPFI手法を導入する場合、供用開始が1、2年遅れるかもしれないということですが、私の理解するところでは、現在の県体育館は令和12年度(2030年度)まで供用すると聞いております。PFI手法導入の場合、令和15年度(2033年度)ぐらいまで新体育館・武道館の供用が遅れることとなり、ブランクができてしまうと思いますが、そのあたりについて何かお考えがあれば教えていただければと思います。

(県事務局)

山形市の霞城公園整備計画において、県体育館・武道館については令和12年度(2030年度)までに撤去することが既定の方針となっています。県としては、現在の県体育館・武道館の代替施設は、県総合運動公園に整備しているという状況ではありますが、実際の問題としてやはり10万人以上の利用者が現にいらっしゃるという

う施設ですので、一昨年知事と山形市長の合意の中で、県が屋内スケート施設を検討し、山形市が地域住民のためのスポーツ施設を考えていく中で、共同で検討しようということになっております。仮に県体育館を令和12年度（2030年度）までに撤去するという既定の方針に基づいて、解体等に要する期間を考えると、令和12年度（2030年度）以前から利用できなくなる、ということになります。実際に県体育館・武道館を利用できない期間が生じるということについて、このスケジュールから見て取れるのはそのとおりでございます。

これにどう対応していくかについては、今後山形市とも一緒になって、いろいろ検討していくことになるのではないかと想像いたします。

（市事務局）

山形市からただいまの御質問に対してお答えさせていただきます。霞城公園整備は、令和15年度（2033年度）までの完成を現在の計画上うたっておりますが、令和8年度、9年度に、これまでの霞城公園整備の進捗状況に合わせた計画の見直しを考えてございます。それが、イコール整備期間の延長ということではありませんが、現在の進捗状況に合わせ、これからの計画を文化庁と相談しながら作っていくこととしておりますので、そういったところと新施設の整備の状況等を勘案しながら、できるだけ空白期間が生じないように、関係機関と協議調整しながら対応していきたいと考えてございます。

【栗田 和真 委員】

ありがとうございました。最後に一つだけ御意見ですけれども、現在は通年型を想定している屋内スケート施設の床の切替えについてですが、この床の切替えの時間、労力に関して、前1日、後ろ1日、当然そこにかかる人の労力があると思われませんが、1回1回、床を張って、また元に戻すことをやっている、と、当然、実質的な稼働率が下がってしまうのではないかと思います。今後、その利用の状況も見極めながらですが、ある程度のシーズンで、体育館利用優先、あるいはスケート利用優先とすることなども考えていく必要があるのではないかと思います。私からは以上です。

【山田 浩久 会長】

三つとも非常に重要な御意見だったと思います。交通等に関しては私も非常に懸念しているところです。また、県体育館・武道館が閉館してから新たな施設ができるまでの隙間の部分に関しては、複数の行政が同時に動いており、それらを完全に整合させることは事実上不可能であることを、まず我々は認識しなければならないのだと思います。その隙間の部分をどう考えるかは、利用者や県民、市民に任せられ

ている部分が多いと思いますので、悪く捉えてしまうとネガティブな考えになってしまいますが、少し前向きに考えると、それだけ猶予期間が与えられており、その間、公立学校体育館の開放を進めたり、他の施設の受入れ体制を充実させていく時間として、ポジティブに考えることもできるのではないかと思います。

【菅間 裕晃 委員】

先日、建設候補地の発表があり、場所や広さが具体的になって、よりイメージしやすくなったと思っております。県民、市民にとって魅力ある場所になるのではないかと、また、そうしていかなければいけないと思っているところです。

一方で、博物館も同一敷地内に整備する方針が決まり、非常に良い面でもありますが、面積的には多少課題もあるのかなと感じており、今後の検討に期待したいと思っております。今後の計画によっては、両施設をうまく使える可能性もあると思っておりますので、より良い施設を整備していかなければならないと考えております。

課題となっていた山形市による地域住民のためのスポーツ施設について、今回、非常に見やすい、詳細な分析をしていただきました。利用者を通年で均一にさせれば、現在想定している地域住民のためのスポーツ施設の規模は妥当だということが分かりました。今後の人口動向や限られた予算のことを考慮しますと、この規模は妥当だと評価してよいのかなと思っておりますが、18時から21時の時間帯については、このままだと現実的にはうまくいかない、ということも明らかになったわけですので、施設規模の拡大が難しいとすれば、やはり学校開放など、利用可能な施設を増やす検討が必要ではないかと思っているところです。

また、大会等について、冬季間はやや課題が残りそうだと思っておりますが、これも屋内スケート施設の切替え等の工夫によって解消できるよう、前向きに考えていくべきだと思っております。この施設が完成したときに、山形の人の動きが変わったよねと言えるように、今後も引き続き検討していきたいと思っております。

【山田 浩久 会長】

今回の分析結果は、私も非常に緻密でわかりやすい説明だと思えました。面による試算は理解できましたが、今後はやはりどのくらい人が入ってくるのかが課題になると思います。前回、前々回の会議で懸案だった観客席数をどれくらいにするかに関わってくると思いますが、大会あるいは催し物の開催時に、どれくらいの観客が見込めるのか、人の流れに関して試算していただくと、皆さんから懸念点として挙がっている交通や駐車場について、検討の余地が生まれてくるのではないかと感じました。

【逸見 良昭 委員】

スポーツ協会の逸見でございます。先週、博物館と新スポーツ施設の建設候補地を県民ふれあい広場を含むエリアとすることが提示され、最適な場所だと思ふ反面、各施設がこの敷地の中で対応できるのか、懸念がありました。

現在山形市が進めている中心市街地活性化の取組みの中では、歩いて楽しめるまちの実現に取り組んでおります。それと同様の考えで、駐車場を広く、施設を小さく整備するのではなく、歩いてでも来たくくなるような施設をぜひお願いしたいと思っております。施設整備を進めるに当たっては、まず初めに駐車場をどうするのかを検討してしまいますが、これだけ立地が良い場所ですので、逆に歩いて行きたくなるような施設であればよいのではないかと思います。特にスポーツ施設については、現在オリンピック開催中で非常にスポーツ熱がある中ではありますが、新しい競技、種目が多くございます。そういった意味では、従来の利用者だけではなく、例えば若者がやっているような競技、種目など幅を広げ、利用者を拡大させるなどの検討も行い、施設の充実を図っていただきたいと思っております。

今回、県体育館の稼働データを出ささせていただきましたが、日時や季節によって大幅に違いがあります。資料を見ると、トータルでは十分に対応できる数字になっておりますが、大会若しくは催し物をやる時期はどうしても偏ってしまい、そういった場合は、おそらく県の総合運動公園を利用しても足りないぐらいになると思っておりますし、先ほどから出ておりますように、公立学校の体育館開放も含めて考える必要があります。ただ、熱中症対策で、冷房のある施設でない試合、大会ができない、もしくは活動ができないという状況を踏まえると、新体育館・武道館にそういった設備を十分に備えることで、利用者が集中してしまう事態が生じると思われます。このあたりの対応も今後考えなければなりません。

また、屋内スケート施設の稼働率に関してですが、現在、落合の総合スポーツセンタースケート場の平日の稼働状況を申し上げますと、ほとんど人がいない状態でございます。競技者だけでなく、一般利用者をどれだけ増やせるかにかかってくるかと思います。そういったことを考えますと、ぜひ今後の予算において、例えば、仮設の樹脂リンクを設置し、活用することで様々な利用者からスケートに対する考え方、利用の感想を聞くなどしながら、新しい施設を整備していただきたいと思っております。

建設候補地や稼働率のデータも公表され、前回に比べ進んできていると思っております。今後は、実際に新スポーツ施設を利用することを前提に、様々な施設整備の詳細を検討していく必要があると思っております。以上です。

【山田 浩久 会長】

逸見委員から非常に重要な御意見が出されたと思います。整備して終わりでは駄目だ、というお話です。製品で考えれば、どこで、いつ、どうやって売るか、いわゆるプロモーションを同時に進めないとは呼べない、商品は売れないわけですから、スケジュールどおり整備を進めることはとても重要なことですが、完成するまでにスケート熱を高めるプロモーションを実施する、オリンピックの年に合わせてオープンする、あるいは新しい競技が出たらそれに対応できる施設を考えていくなど、プロモーションの部分を同時に進めていくことも今後重要になってくると思います。

【細谷 尚寿 委員】

高体連の細谷です。逸見委員からあったように、ミラノ・コルティナオリンピックでの日本選手の活躍、嬉しく思っているところです。その中でも、山形県で生まれ育った選手、山形の高校で学んだ選手が出場していることは本当に心強く、メダル等は成し得ませんでした。子どもたちが大人になって活躍してくれることは本当に感動する、そんな思いをしているところでございます。

さて、2月12日、予算内示会において、建設候補地を公表していただき、本当にありがたいなと思っております。

先ほど、ワクワクしてくるという言葉が井上委員からありましたけれども、あの場所にあんな施設ができたらどうなるんだろうと、皆さんイメージしたと思います。それぞれ、どんなイメージを持っていたかは違うとは思いますが、私はやはり、山形の子もたちがその施設を使い、また、山形の子もたちが成長し、大人になっていくに当たり、どんな子もたちを育てていくのかといったコンセプトについて検討することも、これから大事になってくると思いました。

資料4について、県体育館の夜間の使用率が90%を超えていることにつきまして、夜間の使用率は、ほぼ100%であり、私はおそらく130%ぐらいになっているのではないかと推察します。例えば抽選で漏れた方、申込ができず待機している方も相当数いると思われる現状で、資料の数字としてはこのような形になっていますけれども、やはり許容範囲はオーバーしている状況ですので、その受け皿をきちんと確保していく方向性につきましては、よろしくお願ひしたいと思っております。

意見になりますが、山形県のスポーツ施設の計画的な整備やロードマップが必要だと思っております。というのは、県武道協議会で要望している県の武道館、県水泳連盟で要望している50メートルの屋内プール、残念ながら山形県には今現在ない馬術場、そして自転車のバンク等々の建設をどのようにイメージしていくのか。そんなところもお考えいただく中での屋内スケート施設の整備をお願いしたいと思っております。

また、まちづくりの観点で言うと、プロスポーツのアリーナ建設などは、まちの活性化の起爆剤として効果が大きいと思います。全体として、まちづくり、ひとづくりの観点も重視し、今後の取組みを進めてほしいと思います。

【益満 環 委員】

秋田大学の益満です。今回の資料を拝見し、建設候補地が決まったことは大きな進展だと思いますし、現在の県体育館の稼働率に関する膨大なデータをコンパクトにまとめて可視化していただいたことも大きな成果だと思います。

私からは、3点、意見とお願いがあります。まずは、コストと納期についてです。前回の検討委員会でもお話しさせていただきましたが、納期が1年、2年と延びると、その分コストも高くなり、予算を確保するのが大変になっていきます。資料にあるとおり、最短でも令和13年度の供用開始ということですが、スケジュールが遅れないように、可能であれば短い期間で整備していくことを考えていただきたいと思います。

また、県民や市民の心が離れないようにすることが必要だと思います。供用開始までの間、県民、市民の心をずっと留めておき、皆さんのワクワク感を継続できるような施策が必要ではないか思っております。

最後に3点目ですが、この検討会議の名称に山形県と山形市という言葉がついており、県と市でぜひ綿密なコミュニケーションを図り、一つのチームとして同じベクトルを向いて動いていただきたいと思います。以上です。

【山川 唯美 委員】

まず、本日の検討会議に当たって、建設候補地の選定や具体的なスケジュール感の提示がなされ、短い時間の中で情報収集していただいたことに感謝申し上げます。

先日の週末に、子どもを連れて霞城公園周辺と、この建設候補地へ行ってみました。ほとんど人がいませんでした。当日は天気良く、外で遊びたい日だったと思いますが、ファミリーはほとんどおらず、外国人の観光客の方がちらほらいらっしやった状況で、現状、この場所にはなかなか人の出入りがないことを目の当たりにしてきました。これから5年程度かけて新スポーツ施設を整備していく中で、普段から県民、市民が利用する場所になるといいなと思ったところです。

あとは大手門通り周辺で商業を営む方も昔から多くいらっしやるといいますので、新スポーツ施設を目的に訪れた方がその周辺において、お金を落とす仕組みなど、観光の側面も含めて検討していかなければならないと考えました。以上になります。

【山田 浩久 会長】

これで委員の皆様からの御意見を全ていただいたこととなりますが、先ほど挙がっていた床の切替えに係る意見に関して、アドバイザーの方々にお聞きしたいのは、床の切替えについて、利用者が切替えの費用を負担することになるのでしょうか。それとも、先行事例では、運営側、経営側の負担とするところが多いのでしょうか。

(クロススポーツマーケティング株式会社 青島 侑也氏)

クロススポーツマーケティングの青島です。基本的には、切替えに係る費用は施設運営側が負担する形になると思いますけれども、興行利用の場合、費用の一部を利用料金に含めることはあり得ます。栗田委員からおっしゃっていただいた、切替え前後で1日ずつかかることに関しましては、断熱床を敷くだけではなく、さらにその上にスポーツ用のフロアを重ねて敷く必要がありますので、作業時間として前後1日かかるというのは、基本的に妥当かなと思っています。

費用については、数十万円程度かかると御理解いただければと思います。また、場合によって、アイスリンク周囲のガラスフェンスまで外すことになれば、やはり1日がかかりで、作業人数も相当数必要になってくるかと思っています。

【山田 浩久 会長】

やはりスポーツ団体が出せるような費用ではないこと、また運営側が負担するとすれば、その分がコストアップに繋がっていくことを考えれば、床の切替えを年中繰り返すわけにはいかないということになるのではないかと思います。

【山田 浩久 会長】

それでは、まとめに入りたいと思います。これまで、検討会議では、公共交通機関を利用してアクセスできる場所が望ましい、あるいは、公有地を活用するのが望ましい、という方向性を提示してきましたが、それをしっかり汲み取っていただき、この建設候補地が決まったことは、我々も議論した甲斐があったと感じております。また、本日の皆様からの御意見も、今後の魅力あるまちづくりに対して期待する声が多かったと思います。

それと、ロードマップの提示がなされた点に関しても、前回の検討会議からの短い時間の中ではありましたが、大きく進んだ点として評価できると思います。

今日の御報告の中にあつた実際の数字を使った分析結果も、委員の皆様から高い評価を得ることができ、今後の運営あるいは建設等に大きな影響を及ぼすと考えられます。これがバージョンアップされ、今後のアンケート調査や、引き続き行われるであろうシミュレーション等に生かされていくことを期待しております。

最後になりますが、やはり付帯施設同士の相互関係といった視点は、当初から皆さんがおっしゃっていることであり、スポーツする人だけではなく、県民、市民あるいは観光客の方が目指す、新しいランドマークあるいは公共空間として、この場所が活用されるのが望ましく、それは非常に重要なことだと思いました。

山形市の形として、南北の流動は結構あるわけですが、市民も観光客も、東西の流動はあまり活発ではありません。文翔館、七日町通り、十日町通りと、山形城跡との間に文化・スポーツ施設が建てられることは、滞りがちであった東西の動きや、「歩ける市街地」を目指す山形市の施策ともうまくマッチングし、発展が期待できるだろうと考えました。県民、市民のウェルビーイングの向上に繋げていく施設ですから、なおのこと、これらの施設の成功を期待せざるを得ない。当然、我々委員だけではなく、県民、市民の大きな期待を背負うことになります。

今回の検討会議で各委員から挙げられた意見は、どれもとても重要な意見でしたので、ぜひそれらを反映していただきたいと思います。全ての意見を事務局でまとめていただき、今後しっかり検討していただければと思います。

それでは、本日の議事はこれで終了したいと思いますので、進行を事務局に戻したいと思います。御協力どうもありがとうございました。

5 その他

次回以降の会議の開催時期や開催内容については、今後調整していくこととした。

以上